

名護市長選挙、辺野古新基地反対市民に政府があらゆる手を使い、総力をかけて襲いかかった。事前投票率 65% という政財界からの圧力による有権者の囲い込み。二階幹事長、菅官房長官、小泉新次郎が 2 度も、その他大物議員が続々と現地入りした。米軍再編交付金、補助金をちらつかせ、政府と基地反対沖縄県民の代理戦争の場と化した。まさかの稲嶺さん敗北に、皆が落ち込み気分に覆われた中、組織ではなく市民の発案で企画実行されたのが「あつまれ辺野古 500 人集中行動」であった。

4/23(月)～4/28(土)あつまれ辺野古 500 人集中行動

ツアーを募集したところ 25 人が参加した。

初日は朝 8 時頃 300 人を超え、県庁バスがつく頃には 700 人を超えた。

機動隊も増強した 5 台のカマボコ、100 人超で排除、囲い込み檻に入れるを実行。

一進一退の末、午後 2 時頃迄持ちこたえたが、ついにダンプが基地内に入った。

工事車両搬入は通常 300 台のところ、この日は 123 台にとどまった。

しかし、機動隊が本気を出せば、500 人集めても止められないことがはっきりした。

平和市民連絡会の高里鈴代さんが鎖骨を折る大怪我（他女性 1 人も肋骨骨折）救急搬送。

4/25 海上座り込みの日、過去最大、カヌー艇 83 艇、抗議船 11 艇（118 名）が参加した。

海上行動に呼応して、辺野古の浜では大連帯集会在開催された。

火曜日 680、水曜日 800、木曜日 500、金曜日 600 人集まった。

しかし排除されるまでの時間が日に日に短くなって、金曜日には 30 分位であった。

4/28(土)は屈辱の日であり、島袋里奈さんの 2 周忌でもあった。

1500 人がゲート前に集まった。 工事車両の搬入は 1 台もなかった



5/15 復帰の日平和行進 5/11～13 南部・中部コース約 40 キロ歩き、宜野湾海浜公園集会。

7/17 翁長知事が仲井間前知事による埋め立て承認を撤回する手続きに入ると表明

7/19 N5、N3、K4 等、辺野古崎の西側部分の埋め立て区域が護岸で完全に封鎖された。

8/6(月)～8/11(土)と 8/16(木)～8/18(土) あつまれ辺野古 2 週間連続行動

ツアーを企画したが、お盆で飛行機代、レンタカー代の高騰もあり、10人参加で抑えた。土砂投入予定日の8/17に合わせて、2週間連続抗議が行われた。後に投入延期発表さる。

8/6 本部町の塩川港に朝7時集合、ダンプによる土砂搬出の動きがない。県庁に移動。

県庁で「撤回の聴聞延期に応じるな」の要請行動。午後6時に漸く回答を得た。

全員が県庁内に入り、立ち席でも会議室に入れられない人は廊下に座り込んだ。

8/7 朝7時、塩川港に集合したが動きなし。嘉手納の防衛局に要請書の手渡しに行く。

入り口で入館拒否され6時ごろまで100名程で座り込みそして機動隊に排除される。

決裂したのは一人一人が代表であるとし、全員参加を譲らなかったからだ。

沖縄防衛局は聴聞を8/17土砂投入の後にしようと、画策しているのだ。

8/8 朝7時より沖縄防衛局包囲行動。局員とALSOK警備員により出入り口はガードされていた。

局員と県庁警備がカラーコーンと柵で敷地を囲い始めたが実力で撤去させた。

読谷村周辺見学。宿への帰路で翁長知事の「意識混濁」、間もなく「逝去」を知る。

8/9 朝のゲート前、黙祷、座り込み、集会後、金城実のアトリエ訪問。

9月末の知事選挙の候補者について激論、副知事、翁長夫人や子息、城間那覇市長等々。

午後3時半、北部国道事務所へ座り込みの歩道を違法に狭めたことへの抗議と要請。

8/10 朝のゲート前での座り込みと集会後、高江経由70号線で奥港、辺戸岬へ。

喜瀬武原闘争に並ぶ、伊部岳実弾射撃演習阻止 闘争の碑を見学した。

8/11 奥武山公園での県民集会に7万人参加、台風による雨の中、那覇市長、謝花副知事、

翁長さん次男那覇市議員など追悼の挨拶。 不屈館、対馬丸記念館見学し帰途に就いた。

